

東北大学大学院歯学研究科 インターフェイス口腔健康科学 第6回学術フォーラム

Forum for Interface Oral Health Science

歯周組織の免疫活性剤を応用した 新規の歯周病化学療法の可能性

- 免疫系の活性化を加えた新規の泌乳牛乳房炎治療法の発見より -

熊谷 勝男 東北大学名誉教授

平成16年12月6日(月) 17:00-18:00
歯学部B1講義室(歯学部講義棟1階)

熊谷先生は東北大学歯学部を定年退官された後、Tセル研究所を設立し、難治性であるウシ乳房炎の防除法の開発に取り組んで来られました。そして、グリチルリチンとラクトフェリンという抗炎症効果を持つ製剤を発見しました。これらは、さらに、抗生物質との併用で、より優れた乳房炎防除効果をもたらすことを見出しました。今回、熊谷先生には、泌乳牛での研究成果を、人間でのそのような新たな歯周病治療法の可能性が見出されるか否かのご意見を交えて、ご講演をいただきます。

連絡先: 研究推進企画室長 篠田 壽 (内線 8310)
副研究科長 高橋 信博 (内線 8294)
第6回モデレーター 渡邊 誠 (内線 8394)